

■菱田春草　　日本画家。新境地を開拓、傑作「落葉」が日本画壇・洋画界双方から謗られるも信念は揺るがず、早世した。
ひしだしゅんそう
佐賀の乱・・1874=　　長野県下伊奈郡飯田町に生まれる。

・・・・・ 1880= 6歳：小学校入学。

明治14年政変1881= 7歳：

岩倉具視没・1883= 9歳：

初の対等条約1888=14歳：小学校高等科卒業。私塾で英語を学ぶ。

帝国憲法発布1889=15歳：東京英語学校に通う。一時は画家を志した次兄為吉のすすめで上京、結城正明について日本画を学ぶ。
帝国議会始・1890=16歳：東京美術学校に入学。

大本教・・・1892=18歳：専修科に進み、橋本雅邦に師事。学則改正で本科2年に編入。

郡司千島探検1893=19歳：学年試業成績で「秋景山水」を描く。

日清戦争始・1894=20歳：同校展覧会の「鎌倉時代闘牛図」で二席。

日清戦争終・1895=21歳：*日清戦争直後に描いた卒業制作「寡婦と孤児」で戦争の被害を表現して、その創作力を認められ、
白馬会・・・1896=22歳：母校教員となる。日本絵画協会発足とともに共進会に「四季景色図」を出品して銅牌。春艸の号を用いる。

八幡製鉄始・1897=23歳：狩野派風の方法に工夫をこらした「枯華微笑」が銀牌、天人五衰に材を取った「水鏡」が銅牌。かたわら帝国博物館の古画模写事業に携わり、また東京美術学校予科の授業を嘱託されるが、

子規句歌革新1898=24歳：「武蔵野」「寒林」。東京美術学校騒動の際に岡倉天心校長に殉じて退職し、天心、橋本雅邦を中心に創立された日本美術院の正員となる。結婚。没線彩画(刷毛を用いた色面描写)を横山大観とともに試みる。

Bushidou・・1899=25歳：「秋景」「稻田姫」。*絵画研究会に参加して「寒梅」を出品。この前後殆どの作品が賞牌を得る。

ピアノ国産化・1900=26歳：「雲中放鶴」「千山萬岳」「蓬莱」。「柴舟」「ほのぼの」「菊慈童」などを発表。人物の無線描法を含むこれらの作品は、侮蔑の意味をこめて朦朧体と呼ばれた。絵画研究会を絵画互評会と改める。

田中正造直訴1901=27歳：「釣婦」「蘇李訣別」「脆月」「落葉飛泉」。

教科書疑獄・1902=28歳：「高士望岳」「雪後」「海岸怒涛」「王昭君」「雪意」「諾冉二尊」。大観と外遊資金調達のため[真真会]を設立。日本絵画協会の評議員・幹事となる。

日比谷公園・1903=29歳：「月下雁」「鹿」「月夜」。大観とインドに渡り、カルカッタで作品展を開いて好評。帰国。

日露戦争始・1904=30歳：天心、大観とともにアメリカ、ヨーロッパに旅行して作品展を開催。

日露戦争終・1905=31歳：帰国後、天心の茨城県五浦に赴く。「絵画について」の冊子を大観と連名で発表。

満鉄発足・・1906=32歳：日本美術院の五浦移転に伴い移住してから、新境地を開拓。

韓国反日暴動1907=33歳：国画玉成会が創立され評議員。文展で「賢首菩薩」が2等。

アラギ創刊・1908=34歳：国画会に「秋景山水」。視力に異常をきたし帰京。

伊藤博文暗殺1909=35歳：*国画玉成会に「杉木立」。文展で「落葉」が2等。しかし、近代日本画の代表傑作というべき「落葉」を発表したときもこれを非日本画とそしられ、洋画家からは洋画かぶれといわれた。これに対し春草は、油絵も水彩画も日本画も将来においては、日本人の頭で構想し、制作したものとして一様に日本画として見られる時代がくるという意見を[時事新報]で表明した。

韓国併合・・1910=36歳：画論「古画の研究」。「雀に鳴」が宮内省買い上げとなる。文展審査委員となり「黒き猫」を出品。

大逆事件判決1911=37歳：*失明に近い状態で描いた「早春」を最後に、腎臓病のため、没した。